

切磋琢磨Ⅱ

校長室だより

R2.2.6 第37号

「ココロ貯金」貯まっていますか？

早いもので、もう2月。校区や学校にある白梅は満開、校庭の河津桜も咲き始めています。暖冬と言われながらも、昨日から寒気が戻ってきています。豊橋では「鬼祭り」が終わると「春」がやってくると言われています。今年の冬は、インフルエンザの流行もなく、過ぎていけるといいと願っています。

感情的にならない子育て法

さて、子育て心理学協会理事の東ちひろさんが、子育てについて講演をされました。その内容がとても自分の心に響いたので、一部抜粋して載せます。

どうして子育てにおいて、保護者は感情的になってしまうことが多いのでしょうか。多くの保護者は子どものことを大事に思っています。しかし、保護者が怒鳴ったり、大きな声で威圧したりしてしまうと、子どもは自分が大事に思われていると感ずることができません。保護者自身も子どもを怒鳴り過ぎている自分が嫌になると言われます。感情を変えるのは難しく、わかっていても怒ってしまいます。

そこで、怒ることを我慢するのではなく、子どもの情緒を安定させることを第一に考えましょう。

(中略) 人は一人一個ずつ、心の中に貯金箱をもっています。周りの人が「聴く」「ふれる」「認める」など、その人への愛情をいろいろな形で伝えると、「ココロ貯金」が貯まります。例えば、「大好きだよ」と伝えてもらうことで、自己肯定感が高くなります。さらに、貯まると情緒が安定してきて、表情が穏やかになり、やる気と自身をもつことのできる子になっていきます。人にやさしくなり、笑顔も多くなってきます。能力全体が高まり、大人が期待していた以上に、その子のよさが出てきます。…

東先生は、「ココロ貯金」が減ってしまうと、子どもはできるだけエネルギーを使わないようになり、やる気がなくなり、不適切な行動が増えてくると言われました。また、わざと怒られるような行動をすることも、「マイナスのふれあい(怒られたり叩かれたりする)」でも、ないよりはいいと思うからだそうです。「無視されること」が、人にとって一番つらいことなのです。

感情的にならないためには、時間・体力・気力の面で余裕をもつことです。「ココロ貯金」を大人も溜めていくことで、子どもとも向き合っていけます。「私って偉い」「私ってすごい」と自分を褒めるといいそうです。きっと人(子ども)との関係も円滑になっていくと思います。

全校朝会(1/29)

月に一度の全校朝会。表彰や校長講話を中心に会がすすみます。同じようにすすんでいくと、時に、そのルーティンを壊したくなります。

今回は、子どもたちだけで入場+有志の先生によるパフォーマンス披露。今回は、形式を変えた表彰と縦割り班での人文字のレクリエーション。人は「いつもと違う」ことに会うと、脳が活性化し、気持ちが前向きになるそうです。人と関わり合う活動は、時には困難を伴うものですが、みんなでどうやって解決していくかを考えていくよい経験にもなります。みんな、どうやったら「や」ができるのか考えて取り組みました。リーダーの指示で動く班、話し合っつくりとする班、ぼーっと立ちつくす班など、さまざまな姿が見られました。この活動をじっと見守る先生方も、子どもたちが自分達で解決する姿を応援していました。

<「やさしい子」人文字「や」を縦割り班で作りました>



今回は、か行の最後の文字「こ」：こころの種を育てていますか？と皆さんに話しました。

校訓『やさしい子、かんがえる子、たくましい子』に少しずつでも近づいていますか？育てるのは自分自身。毎日の頑張りや経験が、みんなの「こころのたね」を育てます。そして、たくさんの二川っ子が、「こころのたね」を育て、花を咲かせていると感じています。周りの友だちを見てください。キラキラしている子、自信のある子、何かに頑張っている子は、花を咲かせている子たちです。次号では、花を咲かせている子どもたちの様子をお伝えしたいと思います。